

令和7年度
関西広域連合 登録販売者試験問題
＜ 前 半 ＞

医薬品に共通する特性と基本的な知識	20問
主な医薬品とその作用	40問

注 意 事 項

試験開始の指示があるまで、試験問題を開かないでください。

- 1 試験時間は、120分です。
- 2 解答用紙（マークシート）は、試験問題と別に配布します。
- 3 解答用紙に記入されている受験番号が受験票記載の受験番号と一致しているかを確認し、一致していれば解答用紙に氏名、フリガナを正確に記入してください。
- 4 解答の方法は、問題の選択肢から正解と思うものを1つ選び、解答用紙の解答欄の数字をマークしてください。複数をマークしている場合は、不正解となります。
- 5 解答用紙へのマークの方法は、解答用紙に記載してある《注意事項》を遵守してください。
- 6 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないでください。
- 7 試験問題中の成分名、人名などの表記そのものには誤りはないものとして解答してください。
- 8 試験問題文中、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「法」と省略して記載しています。
- 9 問題の内容については、質問を受け付けません。
- 10 受験票と試験問題は、持ち帰ってください。

試験会場では静粛にし、試験監督者の指示に従ってください。
不正行為や試験監督者の指示に従わないときは、退場を命じ、受験を無効とする場合があります。

[医薬品に共通する特性と基本的な知識]

問 1

医薬品の本質に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 一般用医薬品は、一般の生活者が自ら選択し、使用するものであり、添付文書や製品表示に記載された内容を見れば、効能効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることはない。
- b 一般用医薬品の販売に従事する専門家は、随時新たに付加される医薬品の有効性、安全性等に関する情報の把握に努める必要がある。
- c 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されなければならない。
- d 一般用医薬品として販売される製品は、製造物責任法（PL法）の対象ではない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問2

医薬品のリスク評価に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組合せを選べ。

新規に開発される医薬品のリスク評価は、医薬品開発の国際的な標準化（ハーモナイゼーション）制定の流れのなかで、個々の医薬品の用量-反応関係に基づいて、医薬品の安全性に関する非臨床試験の基準である（ a ）が制定されている。また、ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準には、国際的に（ b ）が制定されている。さらに、製造販売後の調査及び試験の実施の基準として（ c ）が制定されている。

	a	b	c
1	GLP	GCP	GPSP
2	GLP	GCP	GVP
3	GCP	GLP	GVP
4	GVP	GLP	GPSP
5	GVP	GCP	GPSP

GCP : Good Clinical Practice

GLP : Good Laboratory Practice

GPSP : Good Post-marketing Study Practice

GVP : Good Vigilance Practice

問3

健康食品に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 健康食品は、医薬品との相互作用で薬物治療の妨げになることはない。
- b 錠剤やカプセル等の医薬品に類似した形状で健康食品を販売することは、禁止されている。
- c 機能性表示食品は、事業者の責任で科学的根拠をもとに疾病に罹患して
いない者の健康維持及び増進に役立つ機能を商品のパッケージに表示する
ものとして、国の個別の許可を受けたものである。
- d 特定保健用食品は、身体の生理機能などに影響を与える保健機能成分を
含むもので、個別に（一部は規格基準に従って）特定の保健機能を示す有効
性や安全性などに関する国の審査を受け、許可されたものである。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問4

セルフメディケーションに関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a セルフメディケーションの推進は、医療費の増加やその国民負担の増大を解決する重要な活動のひとつである。
- b 地域住民の健康相談を受け、一般用医薬品の販売等や必要に応じて医療機関の受診を勧める（受診勧奨）という登録販売者の業務は、セルフメディケーションの推進に欠かせないものである。
- c 平成29年1月からは、条件を満たした場合にスイッチOTC医薬品の購入の対価について、一定の金額をその年分の総所得金額等から控除するセルフメディケーション税制が導入された。
- d セルフメディケーション税制は、令和4年1月の見直しにより、全ての一般用医薬品が対象となった。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問5

免疫及びアレルギーに関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 免疫とは、細菌やウイルスなどが人体に取り込まれたとき、人体を防御するために生じる反応である。
- b アレルギーは、一般的にあらゆる物質によって起こり得るものである。
- c アレルギー症状は、結膜炎症状や鼻炎症状、蕁麻疹や湿疹等の皮膚症状及び血管性浮腫のようなやや広い範囲にわたる腫れ等が生じることが多い。
- d アレルギーには体質的・遺伝的な要素があり、アレルギーを起こしやすい体質の人や、近い親族にアレルギー体質の人がいる場合には、注意が必要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問6

医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 眠気や口渇等の比較的良好に見られる症状は、副作用に含まれない。
- b 一般用医薬品は、通常、重大な副作用を回避することよりも、その使用中断することによる不利益を回避することが優先される。
- c 副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりでなく、明確な自覚症状として現れないこともある。
- d 一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等から副作用の発生の経過を十分に聴き、副作用の状況次第では、購入者等に対して、速やかに適切な医療機関を受診するよう勧奨する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問7

医薬品の適正使用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 医薬品の販売等に従事する専門家は、一般用医薬品の適正な使用を図るため、購入者等の理解力や医薬品を使用する状況等に即して説明をすべきである。
- b 医薬品は、その目的とする効果に対して副作用が生じる危険性が最小限になるよう、使用する量や使い方が定められている。
- c 一般用医薬品を使用して症状が一時的に緩和するなら、疾病の根本的な治療や生活習慣の改善等を行わず、使用し続けることが推奨される。
- d 医薬品の販売等に従事する専門家は、必要以上の大量購入や頻回購入などを試みる者であっても、販売を差し控えるなどの対応をする必要はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 8

複数の医薬品や食品による相互作用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 医薬品の相互作用は、医薬品が吸収、分布、代謝又は排泄^{せつ}される過程でのみ起こる。
- b 相互作用を回避するには、ある医薬品を使用している期間やその前後を通じて、通常、その医薬品との相互作用を生じるおそれのある医薬品や食品の摂取を控えなければならない。
- c 外用薬であっても、食品によって医薬品の作用や代謝に影響を受ける可能性がある。
- d 購入者等が医療機関・薬局から交付された薬剤を使用している場合には、一般用医薬品の販売等に従事する専門家が、一般用医薬品を併用しても問題ないか判断すべきである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問9

医薬品とアルコールの相互作用に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組合せを選べ。

アルコールは、主として肝臓で代謝されるため、酒類（アルコール）をよく摂取する者では、肝臓の代謝機能が高まっていることが多い。その結果、肝臓で代謝されるアセトアミノフェンなどでは、通常よりも（ a ）なり、薬効が（ b ）ことがある。また、代謝によって産生する物質（代謝産物）が人体に悪影響を及ぼす医薬品の場合には、副作用が（ c ）なる。

	a	b	c
1	代謝されにくく	十分に得られなくなる	現れにくく
2	代謝されにくく	強く現れる	現れやすく
3	代謝されやすく	強く現れる	現れにくく
4	代謝されやすく	十分に得られなくなる	現れやすく
5	代謝されやすく	十分に得られなくなる	現れにくく

問 1 0

小児等への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」において、幼児とは、おおよその目安として、1歳以上7歳未満をいう。
- b 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が長いため、服用した医薬品の吸収率が相対的に高い。
- c 小児は、大人と比べて血液脳関門が発達しているため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起しにくい。
- d 乳児は状態が急変しやすく、一般用医薬品の使用の適否が見極めにくい
ため、基本的には医師の診療を受けることが優先される。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 1 1

高齢者への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 一般に生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると若年時と比較して副作用を生じるリスクが低くなる。
- b 持病（基礎疾患）を抱えていることが多いが、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化することはない。
- c 喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている（嚥下障害）場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰ませやすい。
- d 細かい文字が見えづらく、添付文書や製品表示の記載を読み取るのが難しい場合等があり、情報提供や相談対応において特段の配慮が必要となる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 1 2

妊婦又は妊娠していると思われる女性及び母乳を与える女性（授乳婦）への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 妊娠の有無やその可能性については、購入者等にとって他人に知られたくない場合もあることから、一般用医薬品の販売等において専門家が情報提供や相談対応を行う際には、十分配慮することが必要である。
- b 妊婦が一般用医薬品を使用する際には、妊婦の状態を通じて胎児に影響を及ぼすことがないよう配慮する必要がある。
- c 便秘薬には、配合成分やその用量によっては、流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。
- d 医薬品の種類によっては、授乳婦が使用した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 1 3

プラセボ効果に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをプラセボ効果という。
- b プラセボ効果によってもたらされる反応や変化は、望ましいもの（効果）だけであり、不都合なもの（副作用）はない。
- c プラセボ効果は、条件付けによる生体反応は関与していないと考えられている。
- d 一般用医薬品の使用によりもたらされた望ましい反応や変化が、プラセボ効果と思われるときは、その効果を目的として医薬品を使用すべきである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 1 4

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 医薬品は、適切な保管・陳列がなされていれば、経時変化による品質の劣化を避けることができる。
- b 医薬品の品質が劣化した場合、人体に好ましくない作用をもたらす物質が生じることはあるが、医薬品の効き目が低下することはない。
- c 医薬品に配合されている添加物成分は、高温や多湿、紫外線等によって品質が劣化することはない。
- d 医薬品が保管・陳列される場所は、清潔性が保たれるとともに、その品質が十分保持される環境となるよう留意する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問 1 5

一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 一般用医薬品は、医療機関での治療を受けるほどではない体調不良や疾病の初期段階、あるいは日常において、生活者が自らの疾病の治療、予防又は生活の質の改善・向上を図ることを目的として用いられる。
- b 一般用医薬品を一定期間若しくは一定回数使用しても症状の改善がみられない場合は、他の一般用医薬品に変更し症状の改善を図るのが適当である。
- c 一般用医薬品の販売等に従事する専門家による情報提供は、必ずしも医薬品の販売に結びつけるのではなく、医薬品の使用によらない対処を勧めることが適切な場合があることにも留意する必要がある。
- d 症状が重いとき（例えば、高熱や激しい腹痛がある場合等）に、一般用医薬品を使用することは、一般用医薬品の役割にかんがみて、適切な対処といえる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 1 6

登録販売者の一般用医薬品を販売する際の姿勢に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 購入者側に情報提供を受けようとする意識が乏しい場合であっても、購入者側から医薬品の使用状況に係る情報をできる限り引き出し、可能な情報提供を行っていくためのコミュニケーション技術を身につけるべきである。
- b 全ての一般用医薬品の販売、情報提供等を担う観点から、一般の生活者のセルフメディケーションに対して支援していくという姿勢で臨むことが基本となる。
- c 一般用医薬品は、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、その医薬品によって対処しようとする症状等が現にあるか把握するよう努めることが望ましい。
- d 購入者等が、宣伝広告や販売価格等に基づいて漠然と製品を選択することがあることに留意しなければならない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 17

薬害の訴訟と、その対応として講じられた措置との関係の正誤について、正しい組合せを選べ。

	薬害の訴訟	その対応として講じられた措置
a	スモン訴訟	医薬品副作用被害救済制度の創設
b	H I V 訴訟	献血時の問診の充実
c	C J D 訴訟	生物由来製品による感染等被害救済制度の創設
d	C型肝炎訴訟	製薬企業に対して感染症報告の義務化

H I V : ヒト免疫不全ウイルス

C J D : クロイツフェルト・ヤコブ病

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問18

サリドマイド及びサリドマイド訴訟に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a サリドマイド訴訟は、サリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟である。
- b サリドマイドは、催眠鎮静成分として承認され、その鎮静作用を目的として、胃腸薬にも配合された。
- c サリドマイドは副作用として血管新生を促進する作用があったため、胎児に先天異常が発生した。
- d サリドマイドによる薬害事件は、日本のみならず世界的にも問題となったため、世界保健機関（WHO）加盟国を中心に、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られた。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 19

スモン訴訟に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組合せを選べ。

(a) として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、(b) に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。キノホルム製剤は、1958年頃から(c) 症状を伴う特異な神経症状が報告されるようになり、米国では1960年にアメーバ赤痢への使用に限ることが勧告されたが、日本で販売が停止されたのは1970年であった。

	a	b	c
1	解熱鎮痛剤	亜急性脊髄視神経症	呼吸器
2	解熱鎮痛剤	中毒性表皮壊死融解症	呼吸器
3	整腸剤	中毒性表皮壊死融解症	消化器
4	整腸剤	亜急性脊髄視神経症	消化器
5	整腸剤	亜急性脊髄視神経症	呼吸器

問20

H I V訴訟に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルス（H I V）が混入した原料血漿^{しょう}から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、H I Vに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- b 国及び製薬企業を被告として、大阪地裁、東京地裁で提訴され、現在も和解に向けた協議が進められている。
- c H I V感染者に対する恒久対策として、国はエイズ治療・研究開発センター及び拠点病院の整備などの取り組みを推進している。
- d 本訴訟を契機に、緊急に必要とされる医薬品を迅速に供給するための「緊急輸入」制度の創設等を内容とする改正薬事法が成立し、施行された。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

[主な医薬品とその作用]

問 2 1

かぜ（感冒）及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 上気道の急性炎症であるかぜは、単一の疾患であり、予後は良好である。
- b かぜによく似た症状の疾患は、喘息、肺結核、関節リウマチなど多数ある。
- c インフルエンザ（流行性感冒）は、細菌の呼吸器感染によるものであり、感染力が強く、また重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。
- d かぜは様々な症状が組み合わさって現れるため、かぜであれば、どのような場合でも総合感冒薬を選択すべきである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 2 2

かぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 葛根湯は、体力虚弱で、神経過敏で気分がすぐれず胃腸の弱いもののかぜの初期、血の道症に適すとされる。
- b 柴胡桂枝湯は、体力中等度又はやや虚弱で、多くは腹痛を伴い、ときに微熱・寒気・頭痛・吐きけなどのあるものの胃腸炎、かぜの中期から後期の症状に適すとされる。
- c 小青竜湯は、体力中等度又はやや虚弱で、うすい水様の痰を伴う咳や鼻水が出るものの気管支炎、気管支喘息、鼻炎、アレルギー性鼻炎、むくみ、感冒、花粉症に適すとされる。
- d 半夏厚朴湯は、体力中等度で、ときに脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振や口の苦味があり、舌に白苔がつくものの食欲不振、吐きけ、胃炎、胃痛、胃腸虚弱、疲労感、かぜの後期の諸症状に適すとされる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 2 3

35歳男性が、かぜの症状があるため、次の成分の一般用医薬品のかぜ薬を購入する目的で店舗を訪れた。この男性に対する登録販売者の説明の正誤について、正しい組合せを選べ。

3錠中：

成分	分量
ブロムヘキシン塩酸塩	4 m g
デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物	16 m g
d1-メチルエフェドリン塩酸塩	20 m g
アセトアミノフェン	300 m g
クロルフェニラミンマレイン酸塩	2.5 m g
アスコルビン酸カルシウム (ビタミンCカルシウム)	83.3 m g (9錠中250 m g)
リボフラビン (ビタミンB2)	4 m g

- a 解熱鎮痛成分の胃腸障害の軽減を目的として、胃酸を中和する成分が含まれています。
- b 口渇を起こしやすい成分が含まれています。
- c 服用後、尿が黄色になったら直ちに服用を中止してください。
- d この薬を服用している間は、飲酒を控えてください。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問 2 4

化学的に合成された解熱鎮痛成分に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組合せを選べ。なお、同じアルファベットの()の中には、同じ字句が入る。

解熱に関しては、中枢神経系におけるプロスタグランジンの産生(a)作用のほか、腎臓における水分の再吸収を促して循環血流量を(b)させ、発汗を促進する作用も寄与している。

また、末梢におけるプロスタグランジンの産生(a)は、腎血流量を(c)させる。よって、心臓に障害がある場合や腎機能に障害がある場合には、その症状を悪化させるおそれがある。

	a	b	c
1	抑制	増加	減少
2	抑制	増加	増加
3	抑制	減少	増加
4	促進	減少	増加
5	促進	増加	減少

問 2 5

かぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤のうち、マオウを含むものの組合せを選べ。

- a かつこんとう 葛根湯
- b しょうさい ことう 小柴胡湯
- c しょうせいりゅうとう 小青竜湯
- d ばくもんどうとう 麦門冬湯

- 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 c) 4 (b、 d) 5 (c、 d)

問 2 6

次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものを選べ。

体力中等度で、慢性に経過する頭痛、めまい、肩こりなどがあるものの慢性頭痛、神経症、高血圧の傾向のあるものに適すとされる。

- 1 呉茱萸湯ごしゅゆとう
- 2 香蘇散こうそさん
- 3 麻黄湯まおうとう
- 4 釣藤散ちようとうさん
- 5 芍薬甘草湯しゃくやくかんぞうとう

問 2 7

一般用医薬品の催眠鎮静薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、慢性的に不眠症状がある人や、医療機関において不眠症の診断を受けている人に使用される。
- b 妊娠中に生じる睡眠障害は、睡眠改善薬の適用対象である。
- c アリルイソプロピルアセチル尿素は、脳の興奮を抑え、痛覚を鈍くする作用がある。
- d 小児及び若年者では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などが現れることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 2 8

次の漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a さんそうにんとう 酸棗仁湯は、体力中等度以下で、心身が疲れ、精神不安、不眠などがあるものの不眠症、神経症に適すとされる。
- b かみきひとう 加味帰脾湯は、体力中等度をめやすとして、神経がたかぶり、怒りやすい、イライラなどがあるものの神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳症かん、歯ぎしり、更年期障害、血の道症に適すとされる。
- c さいこかりゅうこつぼれいとう 柴胡加竜骨牡蛎湯は、体力中等度以上で、精神不安があつて、動悸き、不眠、便秘などを伴う高血圧の随伴症状、神経症、更年期神経症、小児夜なき、便秘に適すとされる。
- d しょうけんちゅうとう 小建中湯は、体力虚弱で疲労しやすく腹痛があり、血色がすぐれず、ときに動悸き、手足のほてり、冷え、ねあせ、鼻血、頻尿及び多尿などを伴うものの小児虚弱体質けん、疲労倦怠、慢性胃腸炎、腹痛、神経質、小児夜尿症、夜なきに適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 2 9

5 5 歳男性が、乗物酔いによる吐きけで気分が悪くなるため、次の成分の一般用医薬品の乗物酔い防止薬を購入する目的で店舗を訪れた。この男性に対する登録販売者の説明の正誤について、正しい組合せを選べ。

1 錠中：

成分	分量
ジフェニドール塩酸塩	1 6 . 6 m g
スコポラミン臭化水素酸塩水和物	0 . 1 6 m g
無水カフェイン	3 0 m g
ピリドキシン塩酸塩（ビタミンB 6）	5 m g

- a この薬を服用している間は、かぜ薬や解熱鎮痛薬の服用は避けてください。
- b 眠気を促す作用がある成分が入っていますが、眠気を解消することを目的として無水カフェインが配合されています。
- c 乗物酔いに伴う一時的な症状ではなく、日常においてめまいが度々生じる場合には、医療機関を受診してください。
- d 緑内障の診断を受けている場合は、服用する前に治療を行っている医師等に相談してください。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問30

次の成分の一般用医薬品の鎮咳去痰薬に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

2カプセル中：

成分	分量
ブロムヘキシン塩酸塩	4 mg
ジヒドロコデインリン酸塩	10 mg
ノスカピン	20 mg
d1-メチルエフェドリン塩酸塩	25 mg
カルビノキサミンマレイン酸塩	4 mg
無水カフェイン	50 mg

- a 12歳未満の小児には使用できない。
- b ノスカピンは、非麻薬性鎮咳成分である。
- c ブロムヘキシン塩酸塩は、気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- d カルビノキサミンマレイン酸塩は、抗ヒスタミン作用を目的として配合されている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問3 1

口腔咽喉薬及び含嗽薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 口腔咽喉薬には、鎮咳成分や気管支拡張成分、去痰成分は配合されていない。
- b 含嗽薬の殺菌消毒効果は、含嗽薬の使用後すぐに食事を摂った場合でも影響はない。
- c グリチルリチン酸二カリウムは、喉の粘膜を刺激から保護する成分として配合されている。
- d バセドウ病や橋本病の甲状腺疾患の診断を受けた人が、ヨウ素系殺菌消毒成分が配合された含嗽薬を使用する場合、その適否について、治療を行っている医師等に相談する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問3 2

胃腸に作用する薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a ウルソデオキシコール酸は、肝臓病の診断を受けた人では、かえって症状を悪化させるおそれがある。
- b テプレノン[®]は、血栓のある人、血栓を起こすおそれのある人では、生じた血栓が分解されにくくなることが考えられる。
- c スクラルファートは、透析を受けている人では、使用を避ける必要がある。
- d ピレンゼピン塩酸塩は、排尿困難、動悸、目のかすみの副作用を生じることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問33

寝冷えによる下痢の症状を訴えて、「ロペラミド塩酸塩」が配合された一般用医薬品の止瀉薬を購入しようとする者への登録販売者の説明について、適切なものの組合せを選べ。

- a 発熱がある場合には、薬により症状の悪化を招くおそれがあるため、使用できない可能性があるとして説明した。
- b 腹部に痛みがある場合には、胃腸鎮痛鎮痙薬を併用してもよいと説明した。
- c 副作用としてめまいや眠気が現れることがあるため、服用後は乗物又は機械類の運転操作をしないように説明した。
- d 1～2週間使用しても症状の改善がみられない場合には、服用を中止し、医師の診療を受けるよう説明した。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問34

瀉下成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a センノシドは、腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、糞便のかさを増やすとともに糞便を柔らかくする。
- b ピコスルファートナトリウムは、大腸に生息する腸内細菌によって分解され、大腸への刺激作用を示すようになる。
- c 水酸化マグネシウムは、腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分量を増し、また大腸を刺激して排便を促す。
- d ビサコジルは、主成分である麦芽糖が腸内細菌によって分解して生じるガスによって便通を促す。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 3 5

胃腸の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a あんちゆうさん 安中散は、体力中等度以下で、腹部は力がなくて、胃痛又は腹痛があつて、ときに胸やけや、げっぷ、胃もたれ、食欲不振、吐きけ、嘔吐おうなどを伴うものの神経性胃炎、慢性胃炎、胃腸虚弱に適すとされる。
- b ましにんがん 麻子仁丸は、体力虚弱で、疲れやすく手足などが冷えやすいものの胃腸虚弱、下痢おう、嘔吐、胃痛、腹痛、急・慢性胃炎に適すとされる。
- c けいし か しやくやくとう 桂枝加芍薬湯は、体力中等度以上で、胃がもたれて消化が悪く、ときに吐きけ、食後に腹が鳴って下痢の傾向があるものの食べ過ぎによる胃のもたれ、急・慢性胃炎、消化不良、食欲不振に適すとされる。
- d りっくんしとう 六君子湯は、体力中等度以下で、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの胃炎、胃腸虚弱、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐おうに適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問 3 6

胃腸鎮痛鎮痙薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a プチルスコポラミン臭化物は、排尿困難の症状がある人、心臓病の診断を受けた人では症状の悪化を招くおそれがある。
- b ロートエキスは、消化管の粘膜及び平滑筋に対する麻酔作用による鎮痛鎮痙効果を期待して配合されている。
- c オキセサゼインは、妊婦又は妊娠していると思われる女性や15歳未満の小児では使用を避ける。
- d 医療機関を受診するなどの対応が必要な痛みについては、医師の診療を受けるまでの当座の対処として一般用医薬品の胃腸鎮痛鎮痙薬を使用することが望ましい。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問37

胃腸に作用する薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 毎日の排便が滞るような便秘には、大腸刺激性瀉下成分が配合された瀉下薬の常用が望ましい。
- b 制酸成分を主体とする胃腸薬は、酸度の高い食品と一緒に使用すると胃酸に対する中和作用が低下することが考えられるため、炭酸飲料等での服用は適当でない。
- c 胃腸鎮痛鎮痙薬に配合されている局所麻酔成分は、痛みが感じにくくなることで重大な消化器疾患や状態の悪化等を見過ごすおそれがあり、長期間にわたって漫然と使用することは避けることとされている。
- d 腸内殺菌成分の入った止瀉薬は、下痢の予防にも有効である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 3 8

一般用医薬品の強心薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a センソは比較的有効域が狭いため、一般用医薬品では1日用量が5mg以下となるよう用法・用量が定められている。
- b ジャコウは、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用がある。
- c ロクジョウは、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用がある。
- d リュウノウは、鎮静作用等を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 3 9

貧血及び貧血用薬（鉄製剤）の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 貧血のうち鉄製剤で改善できるのは、鉄欠乏性貧血のみである。
- b 銅は、糖質・脂質・タンパク質の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で、硫酸銅が配合されている場合がある。
- c ビタミン成分では、ヘモグロビン産生に必要なビタミンB6や、正常な赤血球の形成に働くビタミンB12や葉酸などが配合されている場合がある。
- d 鉄製剤を服用すると便が黒くなることがあるが、服用前から便が黒い場合は、貧血の原因として消化管内で出血している場合もあるため、服用前の便の状況との対比が必要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問40

痔及び一般用医薬品の痔疾用薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 痔は、肛門部に過度の負担をかけることやストレス等により生じる。
- b 痔核は、肛門に存在する細かい血管群が部分的に拡張し、肛門内にいぼ状の腫れが生じたものである。
- c 痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して、組織修復成分であるイソプロピルメチルフェノールが配合されている。
- d リドカインは、局所への穏やかな熱感刺激によって痒みを抑える効果を期待して配合される。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問41

次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものを選べ。

体力中等度以下で、疲れやすくて、四肢が冷えやすく、尿量減少又は多尿でときに口渴があるもの下肢痛、腰痛、しびれ、高齢者のかすみ目、痒み、排尿困難、残尿感、夜間尿、頻尿、むくみ、高血圧に伴う随伴症状の改善（肩こり、頭重、耳鳴り）、軽い尿漏れに適すとされる。

- 1 芎帰膠艾湯 きゅうききょうがいとう
- 2 乙字湯 おつじとう
- 3 竜胆瀉肝湯 りゅうたんしゃかんとう
- 4 八味地黄丸 はちみじおうがん
- 5 苓桂朮甘湯 りょうけいじゆつかんとう

問4 2

女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる漢方処方製剤のうち、体力虚弱な人に用いるものの組合せを選べ。

- a 桂枝茯苓丸けいし ぶくりょうがん
- b 四物湯し もつとう
- c 桃核承気湯とうかくじょうきとう
- d 当帰芍薬散とうき しゃくやくさん

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問4 3

アレルギー及び蕁麻疹じん しんに関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 体内に侵入したアレルギーが直接、肥満細胞を刺激することによって、細胞間の刺激の伝達を担うヒスタミンやプロスタグランジン等が遊離される。
- b 肥満細胞から遊離されたヒスタミンは、周囲の器管や組織表面の受容体と反応することで血管拡張や血管透過性亢進こうしん等の作用を示す。
- c 皮膚症状が治まると喘息ぜんが現れるというように、種々のアレルギー症状が連鎖的に現れることがある。
- d サバなどの生魚は、傷むとヒスタミンやヒスタミン様物質が生成することがあり、そうした食品を摂取することで蕁麻疹じん しんを生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問44

次の成分の一般用医薬品の鼻炎用内服薬に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

3カプセル中：

成分	分量
プソイドエフェドリン塩酸塩	105 mg
ベラドンナ総アルカロイド	0.4 mg
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	4.5 mg
サイシン乾燥エキス	30 mg
無水カフェイン	120 mg

- a プソイドエフェドリン塩酸塩は、他のアドレナリン作動成分に比べて中枢神経系に対する作用が強く、副作用として不眠や神経過敏が現れることがある。
- b ベラドンナ総アルカロイドは、ヒスタミンの働きを抑える作用を目的として配合されている抗ヒスタミン成分である。
- c サイシンは鎮痛、鎮咳、利尿等の作用を有するとされる生薬成分で、鼻閉への効果を期待して用いられる。
- d この医薬品は、前立腺肥大による排尿困難の症状がある人では、症状を悪化させるおそれがあるため、使用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

問45

アレルギー症状の緩和を目的として用いる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 十味敗毒湯、消風散、当帰飲子は、鼻の症状を主とする人に適すとされる。
- b 茵陳蒿湯は、体力中等度以下で、冷え症で、皮膚が乾燥するものの湿疹・皮膚炎（分泌物の少ないもの）、痒みに適すとされる。
- c 葛根湯加川芎辛夷は、比較的体力があるものの鼻づまり、蓄膿症（副鼻腔炎）、慢性鼻炎に適すとされる。
- d 辛夷清肺湯は、構成生薬としてカンゾウを含まない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問46

鼻炎用点鼻薬及びその配合成分に関する記述について、誤っているものを選べ。

- 1 鼻炎用点鼻薬は、急性鼻炎、アレルギー性鼻炎又は副鼻腔炎による諸症状のうち、鼻づまり、鼻みず、くしゃみ、頭重の緩和を目的として、鼻腔内に適用される外用液剤である。
- 2 スプレー式鼻炎用点鼻薬は、噴霧後に鼻汁とともに逆流する場合があるので、使用前に鼻をよくかむ。
- 3 点鼻薬の成分は、鼻粘膜を通っている血管から吸収されて循環血液中に入りやすく、全身的な影響を生じることがある。
- 4 ナファゾリン塩酸塩が配合された点鼻薬は、過度に使用すると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまりがひどくなりやすい。
- 5 クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎にも有効である。

問 4 7

眼科用薬及びその配合成分に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a コンタクトレンズをしたままの点眼は、ソフトコンタクトレンズ、ハードコンタクトレンズに関わらず、すべての点眼薬で行うことはできない。
- b 点眼の際には、薬液に雑菌を混入させないために、容器の先端が眼瞼（まぶた）や睫毛（まつげ）に触れないようにする。
- c 点眼薬の1滴の薬液量は、結膜囊の容積より少ないとされている。
- d テトラヒドロゾリン塩酸塩が配合されている点眼薬は、緑内障を悪化させることがある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 4 8

外皮用薬に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 外皮用薬は、表皮の角質層が柔らかくなることで有効成分が浸透しやすくなることから、入浴後に用いるのが効果的とされる。
- b 貼付剤は、同じ部位に連続して貼付すると、かぶれを生じやすい。
- c スプレー剤は患部から十分離して、10秒以上同じ部位に連続して噴霧することが望ましい。
- d 火傷や化膿した創傷面の消毒、口腔内の殺菌・消毒を目的とする製品は、医薬部外品として製造販売されている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問49

きず口等の殺菌消毒成分に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a アクリノールは、真菌、結核菌、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。
- b オキシドールの作用は、過酸化水素の分解に伴って発生する活性酸素による酸化、及び発生する酸素の泡立ちによる物理的な洗浄効果による。
- c レゾルシンは、細菌や真菌類のタンパク質を変性させることにより殺菌消毒作用を示し、にきび用薬などに配合されている場合がある。
- d ポビドンヨードは、ヨウ素及びヨウ化カリウムをエタノールに溶解させたもので、皮膚刺激性が強く、粘膜や目の周りへ使用は避ける必要がある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問50

痒み、腫れ、痛み等を抑える配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a デキサメタゾン^{かゆ}は、ステロイド骨格を持つ抗炎症成分の一つである。
- b ステロイド性抗炎症成分は、末梢組織の免疫機能を増強させる作用を示すため、みずむし、たむし、にきび等に用いられる。
- c ケトプロフェンを主薬とする外皮用薬では、紫外線により、使用中又は使用後しばらくしてから重篤な光線過敏症が現れることがある。
- d ジクロフェナクナトリウムを主薬とする外皮用薬は、皮膚感染症に対して効果がなく、痛みや腫れを鎮めることでかえって皮膚感染が自覚されにくくなるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問51

外皮用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a ジフェンヒドラミンは、肥満細胞から遊離したヒスタミンとその受容体タンパク質との結合を促進することにより、湿疹、かぶれ、虫さされ等による一時的な皮膚症状（ほてり・腫れ・痒み等）を緩和する。
- b カンフルは、皮膚表面に冷感刺激を与え、患部の血行を促す効果や、知覚神経を麻痺させることによる鎮痛・鎮痒の効果を期待して配合されている場合がある。
- c 温熱刺激成分を主薬とする貼付剤は、入浴後すぐに貼るのが効果的である。
- d 損傷皮膚の組織の修復を促す作用を期待して、アラントインが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問52

次の成分の一般用医薬品のみずむし・たむし用薬に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

100mL中：

成分	分量
ピロールニトリン	0.2 g (力価)
クロトリマゾール	0.4 g
クロタミトン	5 g
l-メントール	1 g

- a ピロールニトリンは、患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。
- b クロタミトンは、冷感刺激成分で、^{かゆ}痒みを感じにくくさせる効果がある。
- c クロトリマゾールは、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
- d 軟膏に比べ、本液剤は有効成分の浸透性が高く、皮膚が厚く角質化している部分に適している。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問53

一般用医薬品の禁煙補助剤に関する記述について、誤っているものを選べ。

- 1 ^{そしゃく}咀嚼剤は、^か噛むことにより口腔内でニコチンが放出されるため、唾液が多く分泌されるよう菓子のガムのように^か噛むこととされている。
- 2 脳梗塞・脳出血等の急性期脳血管障害がある人は、使用を避ける。
- 3 うつ病と診断されたことのある人では、禁煙時の離脱症状により、うつ症状を悪化させることがあるため、使用を避ける。
- 4 ニコチンは交感神経系を興奮させる作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用により、その作用を増強させるおそれがある。
- 5 禁煙補助剤は、喫煙を完全に止めたうえで使用することとされている。

問 5 4

医薬品として扱われる保健薬に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組合せを選べ。

滋養強壯保健薬は、(a) を生じやすい状態や体質の改善、特定の (b) の不足による症状の (c) 等を目的として、ビタミン成分、カルシウム、アミノ酸、生薬成分等が配合された医薬品である。

	a	b	c
1	消化不良	栄養素	改善又は予防
2	消化不良	エネルギー源	治療又は予防
3	体調不良	栄養素	改善又は予防
4	体調不良	栄養素	治療又は予防
5	体調不良	エネルギー源	治療又は予防

問 5 5

滋養強壯保健薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a ビタミンAやビタミンDなどの水溶性ビタミンでは、過剰摂取により過剰症を生じるおそれがある。
- b 医薬部外品として製造販売されている製品の効能・効果の範囲は、しみ・そばかす等のような特定部位の症状に限定されている。
- c 生薬成分であるロクジョウは、医薬部外品においても配合することができる。
- d ビタミン成分の1日最大量が既定値を超えるものであっても、医薬部外品として製造販売されている製品がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 5 6

次の漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a せいじょうぼうふうとう 清上防風湯は、体力中等度以上で、赤ら顔で、ときにのぼせがあるもののにきび、顔面・頭部の湿疹・皮膚炎、赤鼻に適すとされる。
- b ぼうふうつうしょうさん 防風通聖散は、体力が充実して、脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しく、便秘の傾向があるものの胃炎、常習便秘、高血圧や肥満に伴う肩こり・頭痛・便秘、神経症、肥満症に適すとされる。
- c だいさいことう 大柴胡湯は、体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節の腫れや痛み、むくみ、多汗症、肥満症（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適すとされる。
- d ぼういおうぎとう 防己黄耆湯は、体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなもの的高血圧や肥満に伴う動悸・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘、蓄膿症、湿疹・皮膚炎、ふきでもの、肥満症に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 5 7

漢方の特徴・漢方薬使用における基本的な考え方に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 漢方処方は、処方全体としての適用性等、その性質からみて処方自体が一つの有効成分として独立したものという見方をすべきものである。
- b 現代では、一般用医薬品の漢方処方製剤として、処方に基づく生薬混合物の浸出液を濃縮して調製された乾燥エキス製剤を散剤に加工したもののみが、市販されている。
- c 「口渇があり、尿量が減少するもの」という状態は、漢方の病態認識では水毒となる。
- d 一般用医薬品の漢方処方製剤に用いることが出来る漢方処方は、現在 50 処方程度である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 5 8

感染症及び食中毒に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 感染症は、病原性のある細菌、寄生虫やウイルスなどが体に侵入することによって起こる望ましくない反応である。
- b 日常生活で問題となる感染症は、飛沫感染するものや経口感染するものが多い。
- c 一般に、夏はウイルスによる食中毒が、冬は細菌による食中毒が発生することが多いと言われている。
- d 食中毒の集団感染を防止するためには、器具等の消毒に適切な化学薬剤（消毒薬）を用いた処置を行うことが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問59

忌避剤及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 忌避剤は、人体に直接使用されるが、虫さされによる痒み^{かゆ}や腫れなどの症状を和らげる効果はない。
- b スプレー剤となっている忌避剤を使用した場合、塗りむらがあると忌避効果が落ちるため、手で塗り広げるなどして、必要以上に使用しないことが重要である。
- c 効果の持続性が高い忌避成分であるディートは、医薬品においてのみ配合が認められている。
- d イカリジンは、生後6ヵ月未満の乳児への使用を避けることとされている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問60

尿糖・尿タンパク検査薬に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 尿タンパクの検査の場合、原則として早朝尿(起床直後の尿)を検体とし、激しい運動の直後は避ける必要がある。
- b 出始めの尿では、尿道や外陰部等に付着した細菌や分泌物が混入することがあるため、中間尿を採取して検査することが望ましい。
- c 尿は通常、弱アルカリ性であるが、食事の影響で変わることがある。
- d 服用している医薬品が一般用医薬品であれば、尿糖・尿タンパクの検査結果に影響を与えることはない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)